

学校教育目標	自ら学ぶ意欲にあふれた児童の育成 — かしこく やさしく しなやかに —	経営理念	【ミッション】「知・徳・体」のバランスの取れた児童の育成 【ビジョン】小規模校の良さを生かし、児童の力を最大限に伸ばす学校 ○児童の夢と希望を育む学校 ○教育環境の整った学校 ○あいさつの声が響く学校 ○保護者や地域と連携する学校
--------	---	------	--

評価計画					自己評価					学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)		改善方針		
項目	重点	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目	目標値	達成値		達成度	評価	結果と課題の分析	評価	コメント	改善方針
							10月	2月						
確かな学力	1	◎めあてに対する自己の学習を振り返る力を身に付ける。 ◎言葉正しく豊かな表現力を身に付けている。	◎自己の学習理解について正しく振り返り、習熟問題に挑戦している。	・めあてとまとめの整合性を図り、振り返りが次時のめあてにつながる授業づくりと評価との連動。上小授業モデルの徹底、習熟問題の時間確保。	★単元末テストの予想平均点を超える児童	80%	80.2%	80%	100%	3	・単元末テスト予想平均点を超える児童80%で10月より微減したが、目標を達成できた。 ・算数科では上小授業モデルを改善し、めあて振り返りまでの流れが定着し、1時間のめあてを達成できるようになってきた。それにより一定の学力が定着した。今後更に研究を推進していく。	A	・学習の流れが定着できたのがよかった。	・今年度の課題を受けて、来年度の研究内容を考え、引き続き、研究を推進していく。
			◎言葉正しく豊かな表現力を身に付けている。	◎語彙数を増やし、場に応じた使い方を身に付けている。 ◎標準学力テスト全国平均を超える。	・各教科における教科書の音読の鍛錬。 ・読み聞かせ・話し方練習の習慣。 ・全校で取組む「学び残しゼロ」。	★標準学力テスト全国平均以上の児童	75%	/	国語 55% 算数 78%	/	2	・国語55%で、目標達成できなかった。様々な教科の授業で音読の鍛錬をしたり、担任以外の先生の読み聞かせを行ったことで、言葉の力を身に付けさせたが、どの学年でも漢字の書き・読み課題がある。漢字の鍛錬に力を入れていきたい。 ・算数78%で、目標を達成できた。研究の推進に加え、個別での指導が有効であった。	B	・テストの数値は達成できなかったが、その他の面では達成できている。
豊かな心	2	◎振り返る力を基盤とし、自己決定する力を身に付け、自己肯定感を高めている。	○自己を見つめ振り返る力を付け、現状を踏まえた自己目標をもつことができる。	・教師力による学習規律の徹底。(チャイムであいさつ、整った学習環境)	★肯定的評価 児童アンケート 教職員アンケート	90%	88.4%	95.7%	106%	4	・アンケートでは、10月よりも肯定的評価がかなり増えたことから、児童も教職員も、学習規律の徹底を意識して、学校生活を送ることができたといえる。日々の積み重ねにより、ある程度の成果が見られた。	A	・落ち着いた学習に取り組んでいる。	・引き続き、教師力による学習規律の徹底を図る。(着ベル、整った学習環境)
			○課題に対する自己決定力を高め、自己肯定感を高める。	・積極的な生徒指導(事実を正しく振り返り、失敗を学びへと導く指導、「聞かせる」前に、「聞くこと」を基本とする。)	★自己肯定感に係る児童アンケート 肯定的評価	90%	88.0%	92.7%	103.0%	4	・アンケート結果では、10月よりも肯定的評価が増えたことから、目標を達成できた。 ・なかよし班での清掃やいろいろな活動により、自己有用感や自己肯定感が高まったと思われる。	A	・「できること」「できたこと」がアンケートに出ている。 ・素直に答えることができるアンケートに努めるとよい。	・積極的な生徒指導 ・なかよし班活動などを通して、いろいろな場面で肯定的評価を教職員全体で行うことで、自己肯定感を高める。
健やかな体	3	◎健康でバランスの取れた体づくり	○学年重点項目を6年間でできるようにする。	・朝の会や体育の時間等を活用して、年間を通して継続的に取り組む。	★低…バービー運動5回以上/15秒 中…かえるの足打ち1回以上、ブリッジ5秒以上 高…かえる倒立5秒以上、補助倒立5秒以上	80%	低 100% 中 100% 高 83%	低 100% 中 100% 高 85.5%	119%	4	・学校全体で取り組み、年間を通じて取り組んだため、運動に慣れるとともに成果を上げることができた。 ・短時間でできる運動で継続できたことが成果につながった。	A	・今年度から始まった取組を、今後も継続して取り組めるとよい。	・継続して行えるものは運動量確保しつつ行い、適宜、運動を追加して全般的な体力を育成できるよう掛け、多様な運動を経験させるようにする。
			○基本的な生活習慣の定着を図る。	・家庭連携とともに、具体的に必要な睡眠時間を示した上で個別の実態に合わせた学級指導・助言を行う。その際、「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムの定着を図り、定期的に「上小っ子の生活カード」をもとに指導する。	★児童の定着率「早寝・早起き・朝ごはん」	85%	90%	89%	105%	4	・睡眠時間が短い児童が見られ、早寝・早起きに課題がみられる。 ・概ね早寝が課題だが、寒い季節になり、早起きがしんどくなった子が微増した。	A	・学校だけではできないことではないが、100%を目指して指導してもらいたい。	・事前の指導、事後の指導を行い、生活習慣を見直す機会を設定する。 ・生活のリズムづくりについて、児童とともに保護者への啓発も行う。
信頼される学校	4	◎校長を中心とした学校経営を行い、地域に信頼され、地域に貢献する学校づくりを推進する。	○学校の教育活動に対する保護者の理解や満足度の向上を図る。	・報連相の徹底と地域・保護者への迅速な対応。	★学校だより発行、ホームページ更新	月1回 月2回	月1回 月2回	月1回 月2回	100%	3	・学校だより月1回、HPの更新月2回以上を行うことができた。 ・引き続き、保護者等からの声にはすぐに学校長に報連相を行い、迅速な対応に努めた。	B	・外部への情報発信に加えて、内部の様子も引き続き見てもらいたい。	・外部への情報発信は、回数だけでなく、適時であることを意識していく。
			○児童とよりよく向き合う時間を確保する。 ○コミュニティ・スクールとして学校運営協議会の充実を図る。	・組織的な業務改善と、教職員のやりがいの向上。 ・タイムリーな学校だより発行・ホームページ更新。	★教職員業務改善に係るアンケート「子供と向き合う時間がこれまでより増えている」肯定的評価	90%	89%	100.0%	111%	4	・後期の木曜日を全て5校時とし、時間の確保に努めた。(文部科学省の通達後) ・引き続き、会議等全員が集まる時間なるべく減らした。	A	・ストレスのない教職員が、児童にも好影響を与えることを、今後も意識してほしい。	・さらに校務の優先順位を意識して取り組み、ストレスの少ない職場にする。

※目標の精選と重点化を行い、重点の項に「1」「2」「3」で表示する。

■自己評価

4...目標を上回って達成 3...目標どおりに達成

2...目標をやや下回って達成 1...目標をかなり下回って達成

■学校関係者評価 (学校運営協議会による評価)

A...とても適切である B...概ね適切である

C...あまり適切でない D...全く適切でない

(N...判定できない)